

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)	良くなる	観光名所（従業員）	・北海道新幹線開業により、当地の交通インフラが飛躍的に向上するほか、新たな国際航空定期航路の就航が決まったことなどから、今後についてはやや良くなる。
	やや良くなる	百貨店（担当者）	・北海道新幹線開業という外的要因があるため、今後についてはやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・セール待ちの状態が続いているため、年明けからは冬物衣料を中心とした消費行動が戻ってくる。
		スーパー（役員）	・北海道新幹線開業を控えて人や物の動きが活発になる。
		衣料品専門店（経営者）	・雪が降れば、道が悪くなるため、歩く人が少なくなることが懸念されるが、全体的には春物商戦まで良い傾向で推移する。
		乗用車販売店（経営者）	・今年投入された高級車や12月発売開始の新型車の受注が好調であり、今後の売上げが見込まれる。また、当地区の登録車市場も前年を上回って推移している。
		乗用車販売店（従業員）	・決算の見込みが良さそうのため、今後については良くなる。
		自動車備品販売店（店長）	・新型車などの新車販売が好調であることから、中古車の売行きも伸びており、それに伴ってナビゲーションやタイヤなどへの問い合わせが増えてきていることから、今後についてはやや良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・さっぽろ雪まつりなどのイベントや旧正月により、今後については高い需要が見込まれる。ただ、週末の客室の稼働率が高い反面、平日の稼働率に停滞感がある。
		旅行代理店（従業員）	・当地では、主要産業である農業で過去最高の粗生産額を記録したこともあり、年末の消費動向に勢いが出てきている。元々、当地では農閑期に旅行需要が活発化する傾向があるため、第4四半期の旅行需要が高まることが期待される。
	美容室（経営者）	・北海道において灯油価格が安いということは、消費者の気持ち軽くなり、消費意欲の向上につながるため、今年の冬は客単価が上昇することになる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・今の商店街の状況を見ると、今後2～3か月では北海道新幹線開業の効果は表れず、トレンドは変わらないまま推移する。
		商店街（代表者）	・当店では中国人の爆買いなどがみられることを理由に前年の売上は上回って推移している。しかし、地元客については、多くの客が激安スーパーと大型店に流れており、前年と比べて2～3割の減少となっている。外国人観光客のお陰で売上が好調を維持できている状態であることから、今後についても変わらない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・12月の売上は大変良い数字で終わることができたため、2～3か月後もこういう良い状況が続く。外国人観光客の効果も徐々に表れ始めてきており、これから先を楽しみにしている。
		百貨店（売場主任）	・食品以外の売上が月ごとに大きく変動しているなど、安定した購買行動が感じられないため、客の消費意欲の向上にはまだ時間がかかることになる。
		百貨店（販売促進担当）	・セール待ちによる需要の持ち越しが見込まれるものの、今後の長期予報では暖冬が予想されていることもあり、この冬はこのままで過ごそうという顧客心理が働くことが考えられ、大きく売上が伸びることまでは期待できない。
		スーパー（店長）	・客の来店頻度が変わっておらず、来客数の伸びにも変化がみられないため、今後については変わらない。
		スーパー（企画担当）	・足元のクリスマス商戦及び年末商戦の状況をみても、販売量の前年割れの傾向が従来と変わっていないなど、客の消費行動に変化がみられないため、今後についても変わらない。
		スーパー（役員）	・海産物の相場が高いことやメーカーの値上げが進むなかで、消費者の商品選定が非常にシビアになっている。安価な商材であっても必要のない物は買わない傾向にあるため、今後についても変わらない。
コンビニ（エリア担当）		・生鮮品の売上は維持できている。また、催事商材の動きも前年並みである。しかしながら、酒やたばこなどのし好品の販売量が落ち込んでおり、平常時の売上や来客数の確保が難しくなってきたため、今後については厳しいまま変わらない。	
コンビニ（エリア担当）	・公共工事の減少や10月の暴風雨による漁業被害といった売上減少要因の回復が見込まれず、全体的な回復にはまだ時間がかかる。		

コンビニ（エリア担当）	・良くなる理由が見当たらない。
衣料品専門店（店員）	・外国人観光客の増加に伴い外国人客が増えたが、日本人客が減っているため、今後についても変わらない。
家電量販店（店員）	・初売りは期待できるが、それ以降の動向に不安があるため、今後についても変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・新型車効果がそろそろ弱くなることが見込まれる。
乗用車販売店（従業員）	・今が景気の下げ止まりのところだと思うが、販売台数が伸びてこないなど、あまり良くない状態にあることから、今後もしばらくは今の状態が続く。
乗用車販売店（役員）	・客の動きをみても、消費マインドが上がってきていないように感じるなど、この先の景気が良くなるような好材料が見当たらない。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・健康に関する情報が多すぎる割に、消費者が一般常識的な医学情報を身に付けていないため、自分たちで基礎的な啓もう活動を繰り返し推進していかない限り、今の状態は変わらない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・販売量が引き続き堅調に推移していることから、今後についても変わらない。
高級レストラン（経営者）	・特別景気が上向くような材料がない。正月を過ぎるとそれまでに出費した分、客の財布のひもも固くなるため、今後については厳しいまま変わらない。
高級レストラン（スタッフ）	・当地では外国人観光客が頼みの綱であるため、円安が続くようなら、当面状況は変わらない。また、当店への影響は少ないかもしれないが、一部のホテルでは、アジア圏からの客の予約の直前キャンセルが相次ぐ傾向を受けて、予約システムを変更し始めており、今後については稼働率の上昇により、若干の観光客増加も見込める。
スナック（経営者）	・明日のことも分からないような状態で、今後への希望が持てない。
観光型ホテル（役員）	・地元客の出足が鈍いことに加えて、今冬は気温や降雪量が不安定で本州方面からの予約があまり良くないため、今後についても変わらない。
旅行代理店（従業員）	・景気動向をみても好材料がなく、年明け以降の天候によっては観光客の足が止まってしまうことが懸念される。
旅行代理店（従業員）	・先行きへのプラス材料が見当たらない。来店する客の希望内容をみても特に好転しているようにはみえない。ただ、ビジネス需要ばかりではなく、行楽を考えている客もまだ多いことから、今後については変わらない。
タクシー運転手	・タクシーの売上は天候と景気に左右されるが、今年は暖冬の予報であるため、夜のタクシー利用も増えないとみられる。
タクシー運転手	・直近のオーダーは入るものの、全体的な予約状況がそれほどでもないため、今後についても変わらない。
タクシー運転手	・12月の好調も季節的な影響と考えられるため、今後についてはほぼ前年並みで変わらない。
タクシー運転手	・需要がやや落ち込んでいる雰囲気がある。12月の天候が良すぎたこともあるが、この時期としてはなかなか売上が伸びてこなかったことから、人口減少の影響もあり、今後については厳しいまま変わらない。
観光名所（職員）	・外国人観光客の増加で相応の好景気感はあるものの、一部の企業のみが恩恵を受けている状況であり、この状況も一過性のものである可能性があるため、根本的な景気回復の見通しがみえてこない。
パチンコ店（役員）	・ガソリンなどの燃料費が下がっているため、中小企業の加工業社などの状況は良くなっているが、一般消費者はその恩恵をあまり受けていないように見える。また、今後の消費税増税を控えて、一部の商材では買い控えなどが出てくることが見込まれる。
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・冬季間の輸送量は例年ほぼ変わらない輸送量となるため、今後についても変わらない。
住宅販売会社（経営者）	・株式市場も為替もこう着状態になっており、誰もがこの先、どのように変化していくのかを様子見している状態にあるため、今後についても変わらない。

やや悪くなる

商店街（代表者）	<p>・取引銀行や会計事務所の話では、市内の企業で半期決算において良かったところはほとんどないとのことであった。また、建築関係の客に聞くと、年が明けてからはほとんど仕事がない状況で心配しているとの話であり、ますます売上が厳しくなり、お金が回らなくなるため、仕入れも抑えなければと縮小も視野に入れて対策を考えているとのことであった。これらのことから、今後についてはやや悪くなる。</p>
商店街（代表者）	<p>・一般市民の税負担がこれからますます増えてきそうな雰囲気であるため、客も景気が良くなるというよりも、景気が悪くなると考えていることが多い。そのため、消費はなかなか上向きにならない。</p>
商店街（代表者）	<p>・今後については、大きな大会や集客イベントなどもない。また、就職や進学を迎える時期でもあるが、年々景気は下降線をたどっている。年金生活者は、奇数月は必要最小限の出費しかしないといった話も聞くことから、今後の販売量増加は見込めない。</p>
商店街（代表者）	<p>・今後については、プレミアム付商品券による消費の前倒しの反動を懸念している。また、外国人観光客については、人数的には大きな変化はみられないが、客単価の低下が顕著であり、来年に向けて外国人観光客パブルの効果が縮小するとみられる。</p>
一般小売店〔土産〕 （経営者）	<p>・地元の様子をみると、漁業では魚がまるで獲れないとの話があり、漁業者の消費の落ち込みが懸念される。そのほかの客についても、今後の消費税増税に対して、今の物価高が続くなかで、せめて物価が安定するまで5年程度は増税を待つべきではないかという声がよく聞かれる。</p>
一般小売店〔土産〕 （経営者）	<p>・中国を始めとするアジアの客の爆買いと言われる消費行動にも大分落ち着きがみられるようになった。今後についても、アメリカの利上げなどの影響でやや円高に振れてきていることや、中国政府の方針によりデビットカードの現金引き出しの制限が強化されたことなどが、外国人観光客の消費にじわじわと影響してくることになる。</p>
百貨店（売場主任）	<p>・客の様子から、年明けのセールについて、昨年と同様に購買行動が落ち込むことが懸念される。最近では、値段よりも価値観で物を買う傾向がみられることもあり、催事などで新しい展開をしていかなければ、厳しい状況にある。</p>
スーパー（店長）	<p>・12月のギフト商戦が年々右肩下がりで悪くなっており、年末年始商戦も最後まで盛り上がらなかったことなどから、これから春にかけても期待薄である。</p>
スーパー（店長）	<p>・商品単価の上昇に伴い、客単価も上昇しているものの、販売量が落ち込んでいることから、結果的に売上の減少が続いている。北海道では冬物商材の売上構成比が高いが、今年は例年にない暖かさで積雪が遅れていることにより、防寒衣料や冬物の寝具、暖房用品の販売量が大きく減少しており、そのことが売上にも大きな影響を与えているため、今後についてもやや悪いまま推移する。</p>
コンビニ（店長）	<p>・本部は間髪を入れず新サービスを投入するが、それを店員が正しく処理する能力が追い付いてこない。また、人手不足により、過重労働になり、体調不良者、退職者が続出している。営業ができなくなる前に24時間営業を止めたり、休業日を作るといった労働環境の見直しが急務となっている。</p>
衣料品専門店（店長）	<p>・暖冬の影響により、これから先の冬物商材の稼働が落ち込むことが懸念される。</p>
その他専門店〔造花〕 （店長）	<p>・インフレ傾向が強まっていることで、今後の消費の冷え込みが懸念される。</p>
旅行代理店（従業員）	<p>・これから厳寒期に向かうが、北海道の人は自宅を空けることを嫌がるため、旅行会社としては今後に対して不景気感がある。</p>
タクシー運転手	<p>・地方創生に関連した政府の政策が今年度内で終了することになれば、運送収入が減少に転じることになる。</p>
タクシー運転手	<p>・忘年会で2次会まで出ない人が多く、師走に入ってもあまりタクシーの利用客が増えていなかったこと、例年よりも電話注文が少なかったことなどから、2～3か月先に景気が回復するとは思えないため、今後についてはやや悪くなる。</p>
通信会社（企画担当）	<p>・携帯電話の料金やその他の提供条件に関する総務省のタスクフォースの影響が大きいと経営層から販売スタッフまで皆が考えているため、今後についてはやや悪くなる。</p>

	悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・来年度はロシア200海里内でのさけます流し網漁が禁止になっており、どうなるか見通しが立たない状況にある。政府が今年度の補正予算案に緊急対策費として総額100億円を計上したという報道もあったが、単年度の話でもあり、悲観的な見方が多い。漁業者はさんま漁解禁までに何を考えるか考えている状況でもあり、消費も抑えられることになる。
企業動向関連 (北海道)	良くなる やや良くなる	- 建設業（経営者）	- ・2月から3月にかけて、土木を主体に公共工事の2015年度の補正予算及びゼロ国債による工事の発注が始まる。また工事の着手はできないが、受注を確保することでマインド面に明るさが出てくることになる。ただ、建築については官民ともに工事の発注はもう少し先になる。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	・現在以上に景気が下向くことはないが、現状は若干弱含みで推移しており、今後もそうした状況が続く。
		家具製造業（経営者）	・今の状況が今後しばらくは続く。今後2～3か月は比較的安定して推移するとみているが、その後は流動的になるだろう。
		出版・印刷・同関連産業（従業員）	・景気が良くなるような条件が見当たらない。
		建設業（従業員）	・民間工事は耐震改修工事がみられる程度であり、公共工事でも年度切替えの発注準備段階となるため、今後については多くを望めない。
		建設業（従業員）	・北海道開発事業費は微増するとみられるが、公共工事受注の先行きはまだ見通せない状況にある。
		輸送業（営業担当）	・全体的な輸送量に大きな変化はない見通しとなっている。
		輸送業（支店長）	・2～3月はまだ冬場であり、現状と特別変わらない見込みとなっている。
		金融業（企画担当）	・外国人観光客の大幅増加と北海道新幹線開業が間近となり、観光関連業種では好調持続が見込まれる。個人消費は所得環境が好転せず節約志向が続く。建設業界は公共工事の減少で土木建設、窯業土石、鋼材卸売などが低迷する。人手不足も幅広い業種でマイナスの影響を及ぼす。
		司法書士	・不動産関連は横ばいの状況であり、新年度の景気動向により、多少上向きになる可能性があるものの、2～3か月後については変わらないまま推移する。
コピーサービス業（従業員）	・瞬間的に景気が良くなっているようにみえるが、こうした状況が続かないとみている客先が多い。		
やや悪くなる	通信業（営業担当）	・今後の景況感について、警戒感を持つ取引先が増えており、来年度の計画も慎重さが目立ってきている。	
	司法書士	・2016年は補欠選挙や参議院選挙が控えているため、経済活動が活発になるとは思えない。消費税増税の問題もあり、企業ではその準備に費用などがかかるため、それらの需要が生じる関連業種は良いとしても、支出が増えるだけの業種にとってはマイナス要因であり、そのほかの経費を削減するなどの処置が必要となる。このため、今後の景気が回復するとは思えない。また、軽減税率の導入により、増税前の駆け込み需要も少ないことが見込まれる。	
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・売上が伸びたとしても利益を圧迫するような要因が増えてきているため、今後についてはやや悪くなる。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当） その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・景気が改善するような兆しがみられない。 ・客先の仕事量が少ないせいか、今後の販売量は期待できない。ただし、春から夏にかけて鉄骨加工案件が多数あるため、回復への期待が持てそうではある。	
	悪くなる	-	-
雇用関連 (北海道)	良くなる やや良くなる	- 新聞社〔求人広告〕（担当者） 職業安定所（職員）	- ・求人広告売上の前年割れの傾向が続いているが、基幹産業である農業の粗生産額が過去最高となったため、その効果が期待できる。 ・新規求人数、有効求人数ともに前年を上回っており、有効求人倍率が6か月連続で1.0倍を超えるなど、これまでになく高水準となっていることから、今後についてはやや良くなる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・人材ニーズはどの業界、業種においても、今後も高まっていくとみられるが、企業の業績がそれに比例して伸びていくようにはみえないため、今後についても変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・基幹産業である農業の粗生産額が過去最高となったが、もう1つの基幹産業である土木建築がマイナスとなっているため、地域全体としては今後も変わらないまま推移する。

	求人情報誌製作会社 (編集者)	・アルバイトやパートの募集は落ち着いてきているが、正社員の求人はまだ意欲的に行われている。今後の政策にもよるが、しばらくは現状の高い水準が続くことになる。
	職業安定所(職員)	・当地を就業地とする他所受理分も含めた求人数は増加しているが、地元企業は観光、宿泊、外食などを除くと活気がないため、今後については変わらない。
	職業安定所(職員)	・求職者が減少するなかで、企業別に求人を見ると、ほとんどの職業で前年を上回る傾向にあり、特に飲食物の調理や接客、給仕の職業、商品販売の職業、介護サービスの職業での増加率が高いことから、今後も同様の状況が続く。
	職業安定所(職員)	・9月から11月にかけての新規求人数、有効求人数の累計が前年比で1%台の微増となっていることから、今後も変わらないまま推移する。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・暖冬と雪不足による求人への影響が年明けにも表れてきそうである。
	学校[大学](就職担当)	・大企業はそこそこ業績が好調かもしれないが、中小企業は利益を出すのに苦戦している。採用活動についても、新卒を採りきれないにもかかわらず、採用水準を下げずに、今年度の活動をやむなく終了させているケースをよく目にする。冬商戦も不発の状況であるため、3月ごろまでは厳しい景気となる。
悪くなる	-	-